

(証券コード: 4118)

株主のみなさまへ

# 第90期 中間報告書

平成 25 年 4 月 1 日 - 平成 25 年 9 月 30 日

株式会社 **カネカ**

もっと、驚く、みらいへ。

**Kaneka**



株主のみなさまへ

株主のみなさまには平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。  
ここにカネカグループの平成25年4月1日から平成25年9月30日までの第90期第2四半期累計期間(上半期)の事業概況につきご報告申し上げます。

世界経済は、米国では緩やかな回復基調が続いているものの、欧州経済低迷の長期化、中国・インドなどアジア諸国の成長ペース鈍化など、先行きの不確実性が引き続き大きい状況となっております。

わが国経済は、円高の修正、政府の経済政策などを背景に、景気は緩やかに回復しつつあるものの、本格的な景気の回復に向けては、海外景気の下振れリスクなど不透明感が残る状況となっております。

このような情勢のなか、カネカグループは、長期経営ビジョン『KANEKA UNITED 宣言』の実現に向け、R&D活動の強化、グローバル展開の促進、事業構造の変革を推進してまいりました。

この結果、当第2四半期累計期間におけるグループ全体の業績は、売上高は2,572億円と前年同期比10.0%の増収、営業利益は114億円と前年同期比53.4%の増益、経常利益は118億円と前年同期比73.8%の増益、四半期純利益は71億円と前年同期比100.0%の増益となりました。

中間配当金につきましては、1株につき8円とさせていただきます。

カネカグループは、引き続き重点戦略分野への経営資源の投入、成長のドライビングフォースとなる新規事業の創出やグローバル展開を一層強化し、事業構造の変革に注力してまいります。また、既存事業では新製品の上市など販売量増大のための施策や競争力向上のための製造コストや経費の削減等の収益力回復策に徹底して取り組んでまいります。

株主のみなさまにおかれましては、今後とも一層のご支援を賜りますよう心よりお願い申し上げます。



代表取締役 社長  
山本 謙二

● CONTENTS

ごあいさつ ..... 1  
 特集：新製品開発の取り組み状況 ..... 3  
 事業別の状況 ..... 5  
 連結業績ハイライト ..... 8  
 連結財務諸表 ..... 9  
 カネカグループの概要 ..... 10  
 トピックス ..... 11  
 企業データ ..... 13  
 株主様向けインフォメーション ..... 14

〈カバーアート〉  
 ・アーティスト：曾谷朝絵 ・制作年：2013  
 ・タイトル：宙(そら) ・watercolor on paper on panel



**長期経営ビジョン「KANEKA UNITED 宣言」の達成に向けては、カネカグループの成長や事業拡大が不可欠ですが、そのキーとなる新製品開発・新規事業開発について社長の菅原がご説明申し上げます。**

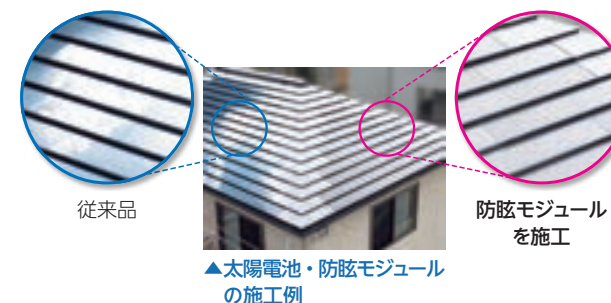
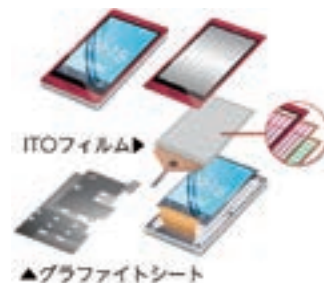


**Q1** 新製品開発はどのように進めているのでしょうか。

2009年に策定した長期経営ビジョンでは、「情報通信」「環境・エネルギー」「健康」「食料生産支援」の4つを重点戦略分野と決めました。これらの分野は、今後成長が期待できる分野であり、当社が社会に貢献できる領域です。新製品開発・新規事業開発についても、これらの分野に対して経営資源を重点的に投入してきました。

**Q2** 各分野における新製品開発の進捗状況や成果はいかがでしょうか。

まず「情報通信」分野では、サーマルソリューション（熱対策）材料として開発を進めてきたグラファイトシートがスマートフォン用途で本格的に採用され、急速な市場ニーズの拡大とともに主力製品となりつつあります。また、スマートフォン、タブレットPC用のタッチパネル向けに需要が増大している透明導電性フィルム（ITOフィルム）を新たに事業化しました。太陽電池をベースに培った薄膜形成技術、光学技術を活かして高品質を実現しています。



次に「環境・エネルギー」分野では、太陽電池事業において、反射光の眩しさを抑えた防眩モジュールを開発し発売しました。これは、従来太陽電池を南面以外に設置した場合の課題であった反射光による問題を解決するもので、2012年度日本太陽エネルギー学会の優秀技術賞を受賞しました。意匠性にこだわった瓦一体型モジュール、スレート瓦専用モジュールと豊富な製品ラインアップで住宅メーカーからも高い評価をいただいております。また、当社の発酵技術とポリマー技術の融合から生まれたバイオポリマー（生分解性プラスチック）も市場からの評価が良好です。他にも、省エネ照明として将来の成長が期待される有機EL照明や天然界面活性剤を活用した放射能除染などの新規事業も着実に進めています。

3番目の「健康」分野では、当社独自の製品である還元型コエンザイムQ10が積極的なプロモーションにより国内外での市場認知が進んでいます。また、コエンザイムQ10以外にも、成人病予防のためのサプリメント等を開発し上市しています。更に、医療機器では、カテーテル製品を従来の血管内領域から消化器領域や眼科領域へ事業

の拡大を進め、将来の成長が期待される再生細胞医療では、細胞の培養、分離・精製向けの自動培養装置を開発し、すでに理化学機器として上市しています。

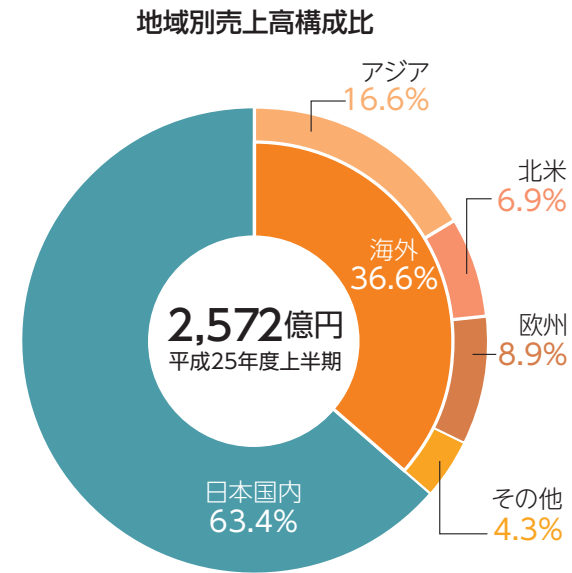
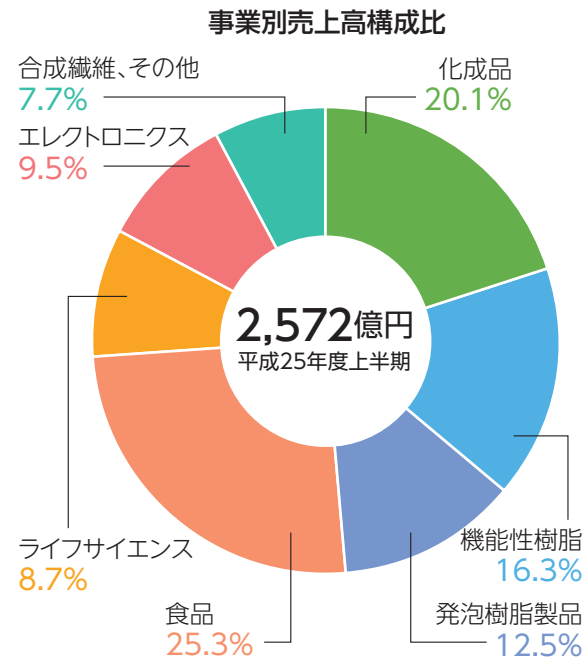
最後に「食料生産支援」分野では、当社の技術・製品・素材を農業・畜水産分野へ中長期的な視点で展開していきます。現段階では、飼料用途への展開や農作物の収量増、病害性の耐性アップなどのR&Dを進めています。

以上のように、各分野において新しい事業の芽は着実に成長しています。

**Q3** 今後の取り組みについてひとことお願いします。

変化の時代を迎えて、成長戦略なくして企業の成長はありません。当社の長期経営ビジョンのキーワードは『変革』と『成長』です。これまでの事業構造の変革の取り組みが、成果として実りつつあると考えています。

当社は生まれながらにして多様な事業を擁し、R&Dをテコに事業を発展させてきました。この多様性こそが当社の力の源泉であり、ユニークな技術をユニークに組み合わせさせて新製品・新規事業を創出し、事業構造の変革を進めていきますが、更にそのスピードを上げることに、経営としても全力を尽くしていきます。



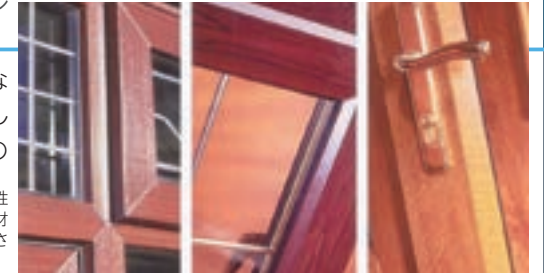
※グラフの比率は表示単位未満を四捨五入しています。

## 機能性樹脂事業

主要製品 モディファイヤー、変成シリコーンポリマー、耐候性MMA系フィルム

モディファイヤーにつきましては、製品差別化力の向上、コストダウンなどの収益体質強化に注力し、国内市場・海外市場ともに販売量が増加しました。変成シリコーンポリマーにつきましては、ユニークな品質特性への評価が高く、国内市場・海外市場ともに販売量が

サンデュレン®: 長期の耐久性が必要な窓枠などの外装材にラミネートして使用され高い評価を得ています。



## 発泡樹脂製品事業

主要製品 発泡スチレン樹脂・成型品、押出発泡ポリスチレンボード、ビーズ法発泡ポリオレフィン

発泡スチレン樹脂・成型品、押出発泡ポリスチレンボードにつきましては、販売量が増加しましたが、原料価格高騰の影響を受けました。ビーズ法発泡ポリオレフィンにつきましては、海外市場を中心に販売量が増加しました。以上の結果、当事業の売上高は前年同期を上回りましたが、利益は下回りました。

カネライトインサー®: カネライトフォームに溝を切り込み伸縮性をもたせた木造住宅用断熱材です。



## 化成系事業

主要製品 塩化ビニール樹脂、塩ビコンパウンド、か性ソーダ、塩化物、塩ビ系特殊樹脂

塩化ビニール樹脂につきましては、国内向け販売が堅調に推移しましたが、原料価格上昇の影響を受けました。塩ビ系特殊樹脂につきましては、海外市場で販売量が増加しました。か性ソーダにつきましては、国内需要が低調に推移し、販売量が減少しました。以上の結果、当事業の売上高は前年同期を上回りましたが、利益は下回りました。

架橋PVC: フィルム、電線、自動車内装部材品などの艶消し、シートのプロッキング防止用に開発された特殊PVCです。



## 食品事業

主要製品 マーガリン、ショートニング、高級製菓用油脂、パン酵母、香辛料

当事業につきましては、食の多様化も進み、消費者の低価格志向が一層強まるなかで、ニーズを先取りした新製品の拡販やコストダウンに注力しました。以上の結果、当事業は売上高、利益ともに前年同期を上回りました。

カネカイースト: 汎用のパン酵母の他、イーストSR・イーストGAなどの種類があり、個性的なパンづくりに貢献しています。





### ライフサイエンス事業

主要製品 医薬品(バルク・中間体)、機能性食品素材、医療機器

医療機器につきましては、期初において血液浄化システムの販売が低調となりましたが、国内外での拡販やコストダウンに注力し、足元では堅調な販売となっています。医薬バルク・中間体につきましては、販売量が低調となりましたが、機能性食品素材につきましては、還元型コエンザイムQ10のサプリメントとしての認知が進み、販売量が前年同期を上回りました。以上の結果、当事業の売上高は前年同期を上回りましたが、利益は下回りました。

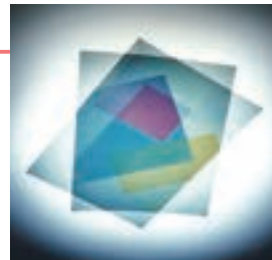
血液浄化器:体外循環により血液中の病因物質を選択的に吸着除去します。



### エレクトロニクス事業

主要製品 超耐熱性ポリイミドフィルム、光学材料、超高熱伝導グラファイトシート、複合磁性材料、太陽電池

超耐熱性ポリイミドフィルムにつきましては、需要が拡大しているエレクトロニクス製品市場で新製品のラインアップや新規案件の採用などにより販売量が前年同期を上回りました。また、需要が大幅に増大しているスマートフォン、タブレットPCのタッチパネル向けに、本年度新たに、透明導電性フィルム(ITOフィルム)を事業化しました。太陽電池につきましては、国内住宅市場における美観と性能を併せ持つ極めてユニークな建材製品としての市場認知が進み、販売が拡大するとともに徹底したコストダウンに注力しました。太陽電池関連部材は販売量が低調となりました。以上の結果、当事業の売上高は前年同期を上回り、利益は黒字化しました。



エルメック®:液晶表示用基板や偏光板の支持フィルム、位相差フィルムなどとして使用されています。

### 合成繊維、その他事業

主要製品 アクリル系合成繊維(カネカロン)

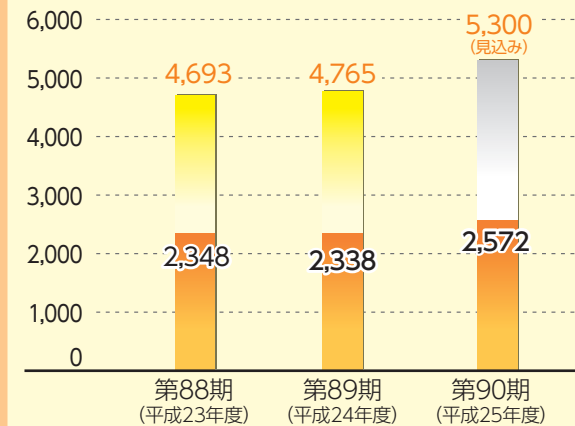
合成繊維につきましては、高付加価値品の拡販を進めるとともに、コストダウンなどの収益改善策に注力しました。以上の結果、当事業は売上高、利益ともに前年同期を上回りました。

Kanecaron®(カネカロン): 獣毛に似た風合いと難燃性を併せ持つアクリル系繊維です。



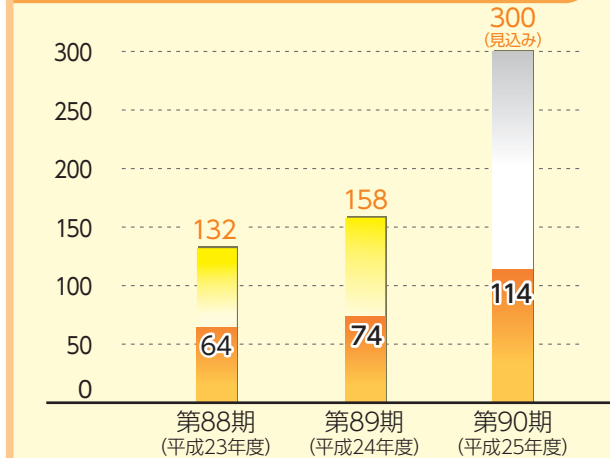
### 売上高

□ 上半期 □ 下半期 (単位:億円)



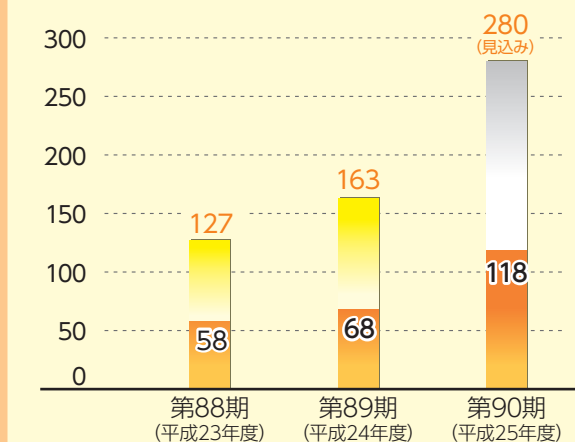
### 営業利益

□ 上半期 □ 下半期 (単位:億円)



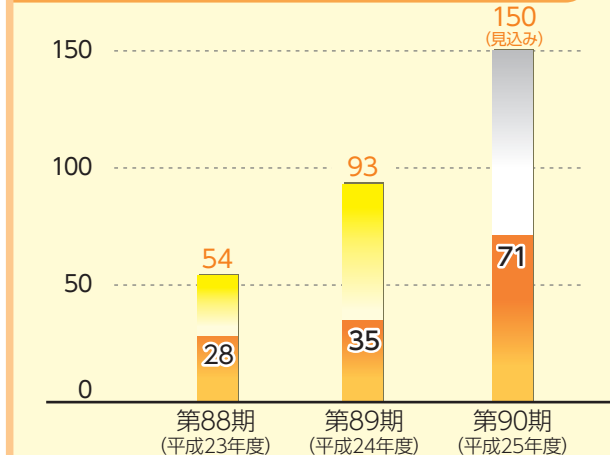
### 経常利益

□ 上半期 □ 下半期 (単位:億円)



### 当期純利益

□ 上半期 □ 下半期 (単位:億円)



● 四半期連結貸借対照表(要約)

(第2四半期連結会計期間末)

(単位:億円)

| 科目       | 第90期         | 第89期         |
|----------|--------------|--------------|
|          | 平成25年9月30日現在 | 平成25年3月31日現在 |
| 資産       |              |              |
| 流動資産     | 2,436        | 2,429        |
| 固定資産     | 2,567        | 2,416        |
| 資産合計     | 5,003        | 4,845        |
| 負債       |              |              |
| 流動負債     | 1,575        | 1,491        |
| 固定負債     | 619          | 649          |
| 負債合計     | 2,195        | 2,140        |
| 純資産      |              |              |
| 株主資本     | 2,629        | 2,583        |
| その他      | 179          | 121          |
| 純資産合計    | 2,809        | 2,704        |
| 負債・純資産合計 | 5,003        | 4,845        |

Point

- 総資産は、前連結会計年度末に比べ159億円増加し、5,003億円となりました。
- 有利子負債残高は、11億円増加し、875億円となりました。
- 純資産は、利益剰余金、その他有価証券評価差額金や為替換算調整勘定の増加等により、104億円増加し、2,809億円となりました。

● 四半期連結損益計算書(要約)

(第2四半期連結累計期間)

(単位:億円)

| 科目           | 第90期                    | 第89期                    |
|--------------|-------------------------|-------------------------|
|              | 平成25年4月1日から平成25年9月30日まで | 平成24年4月1日から平成24年9月30日まで |
| 売上高          | 2,572                   | 2,338                   |
| 営業利益         | 114                     | 74                      |
| 経常利益         | 118                     | 68                      |
| 税金等調整前四半期純利益 | 106                     | 59                      |
| 四半期純利益       | 71                      | 35                      |

Point

- 売上高は、前年同期に対し234億円・10.0%の増収となりました。
- 利益は、前年同期に対して営業利益で40億円・53.4%、経常利益で50億円・73.8%、四半期純利益で35億円・100.0%の、それぞれ増益となりました。

● 四半期連結キャッシュ・フロー計算書(要約)

(第2四半期連結累計期間)

(単位:億円)

| 科目               | 第90期                    | 第89期                    |
|------------------|-------------------------|-------------------------|
|                  | 平成25年4月1日から平成25年9月30日まで | 平成24年4月1日から平成24年9月30日まで |
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | 219                     | 139                     |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | △ 159                   | △ 170                   |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | △ 31                    | △ 6                     |
| 現金及び現金同等物の四半期末残高 | 350                     | 233                     |

Point

- 営業活動による資金の増加は、税金等調整前四半期純利益や減価償却費等により219億円となりました。
- 投資活動による資金の支出は、有形固定資産の取得による支出等により159億円となりました。
- 財務活動による資金の支出は、配当金の支払額等により31億円となりました。
- この結果、現金及び現金同等物の当第2四半期連結会計期間末残高は、350億円となりました。

● 国内ネットワーク

- 化成品
  - 昭和化成工業(株)
  - 龍田化学(株)
- 機能性樹脂
  - セメダイン(株)
- 発泡樹脂製品
  - カネカ北海道スチロール(株)
  - カネカ東北スチロール(株)
  - カネカ関東スチロール(株)
  - カネカ中部スチロール(株)
  - カネカ西日本スチロール(株)
  - 関東スチレン(株)
  - (株)羽根
  - 玉井化成(株)
  - 高知スチロール(株)
  - カネカフォームプラスチック(株)
  - カネカケンテック(株)
  - 北海道カネライト(株)
  - 九州カネライト(株)
  - 三和化成工業(株)
  - イビデン樹脂(株)
  - (株)イーピーイ
- 食品
  - カネカ食品(株)
  - (株)カネカフード
  - (株)東京カネカフード
  - (株)カネカサンスパイス
  - 太陽油脂(株)
  - 新化食品(株)
  - 長島食品(株)
- ライフサイエンス
  - (株)カネカメディックス
  - (株)大阪合成有機化学研究所
  - (株)リバーセイコー
- エレクトロニクス
  - 栃木カネカ(株)
  - カネカソーラーテック(株)
  - サンビック(株)
  - (株)ソーラーサーキットの家
  - (株)ヴィーネックス
  - カネカソーラー販売(株)
  - OLED青森(株)
- 合成繊維、その他
  - (株)カネカ高砂サービスセンター

● 海外ネットワーク

- ヨーロッパ
  - カネカベルギーN.V.
  - カネカファーマヨーロッパN.V.
  - ユーロジェンテックS.A.
  - カネカモディファイヤーズドイツGmbH
- アメリカ
  - カネカアメリカズホールディングInc.
  - カネカノースアメリカLLC
  - カネカファーマアメリカLLC
- アジア/オセアニア
  - カネカシンガポールCo.(Pte)Ltd.
  - カネカマレーシアSdn.Bhd.
  - カネカエペランSdn.Bhd.
  - カネカペーストポリマーSdn.Bhd.
  - カネカイノベティブファイバースdn.Bhd.
  - カネカアピカルマレーシアSdn.Bhd.
  - 蘇州愛培朗緩衝塑料有限公司
  - 青島海華繊維有限公司
  - 鐘化企業管理(上海)有限公司
  - 鐘化貿易(上海)有限公司
  - PT.カネカフーズインドネシア

■印は連結子会社、■印は持分法適用関連会社であることを示します。

連結子会社の数 59社 (上記以外に連結子会社が7社あります。)

持分法適用関連会社の数 3社

※詳細な情報をお知りになりたい方は、当社WEBサイトをご覧ください。

カネカ IR 検索

## 競争力強化、事業拡大を目指し、食品事業部門の販売会社を統合

当社は、7月1日付で、連結子会社であるカネカ食品販売(株)、東京カネカ食品販売(株)、東海カネカ食品販売(株)、九州カネカ食品販売(株)の4社を統合し、カネカ食品(株)として新たなスタートをきりました。

当社の食品事業は、主要な販売チャネルとして日本全国を4地域に分け販売会社を設立し、各販売会社は、それぞれの地域に根付いた営業活動をベースに、当社が生産する製パン・製菓向け材料等の販売やその他原材料の仕入販売を行い、当社食品事業の中核企業として重要な機能を担い、事業拡大を果たしてまいりました。

一方、食品業界を取り巻く環境は、市場構造の変化・原料高騰・嗜好の多様化・安心安全への要求の高まり等、急激に変化しており、当社食品グループにおいても、製造・研究・販売・物流・購買などのあらゆる領域で更なる基盤強化を進める必要がありました。

その一環として4販売会社を統合し、年商1,000億円規模となる製パン・製菓向けを主体とした原材料問屋を誕生させました。新会社は、この規模を基盤に、当社技術による差別化された製品や豊富な仕入品などの総合力、全国に網羅した営業・物流拠点網を強みとして更なる拡大を目指します。また、加工食品向けの新たな素材提供も拡充して、当社食品事業の事業拡大戦略を担う中核企業としての位置づけを更に強固なものとし、徹底した競争力強化を図ります。加えて、これまで販売会社それぞれが強化してきた経営資源を集約し、業務運営の効率化と営業・物流・購買・技術開発の機能強

化を図ります。更に、IT技術の活用による情報システムネットワークを構築し、お客様の様々なニーズにスピーディーに応え、全国どこでも必要な時に、必要なものを必要なだけ、お届けできる体制と全国市場情報のネットワークの拡充を目指します。

新会社は「驚きの、おいしさのそばに、いつも。」というビジョンステートメントを掲げ、お客様に、驚きのある美味しい食品素材を届けるスペシャリティ・ホールセラーを目指し、新たな食文化の創造に貢献してまいります。



▲カネカ食品(株) ビジョンステートメント



▲カネカ食品(株)を中心に当社食品グループが主催した展示会「フードフェスタ」の様子

## 医療機器事業、消化器領域への本格参入

当社の医療機器事業は、体外循環により血液中の病因物質を選択的に除去する血液浄化システムと、血管内治療用カテーテルをはじめとするインターベンション事業を中心に展開してまいりました。この度、更なる事業の拡大を目指し、(株)リバーセイコーの経営権を取得して、消化器領域(内視鏡処置具)に本格的に参入することになりました。

同社は消化器領域でユニークな技術や製品を保有している研究開発型メーカーです。同社を傘下に入れることで、消化器領域での事業を早期に立ち上げるとともに、当社の得意とする高分子加工技術と同社の金属加工技術を組み合わせることで、消化器領域だけでなく循環器領域や脳・腎臓など他臓器でも新製品開発を進め、3年後には100億円の売上増を目指します。



▲(株)リバーセイコー 伊那工場

## CSR ● 高砂工業所での地域対話、夏祭りを実施

高砂工業所(兵庫県高砂市)では、市内の園児・児童を招いて芋の苗植え・芋掘り体験やモノづくり体験、兵庫県の推進する森林保全活動への参画など、様々なCSR活動を展開しています。

本年度は、毎年恒例となっている夏祭り開催日にあわせ、地元高砂町の皆さまをお迎えして、地域対話イベントを実施しました。当日は、酷暑の中、高砂町連合自治会長はじめ各自治会役員、高砂中学校、高砂南高校の先生方など、22名の方々にお集まりいただきました。

イベントでは、まず高砂工業所の生産品目や、皆さまの関心が高い環境・防災に対する取り組みを紹介し、その後、工業所全体を巡回しながら、電解工場にある

原料塩の山や食品工場のマーガリン工程を見学していただきました。

その後の質疑応答では、貴重なご指摘やご意見をいただき、地域活動に対する思いを新たにいたしました。

夕刻からは、多数の地域住民の方々と一緒に夏祭りに参加していただき、様々な出し物で楽しいひと時をお過ごしいただきました。



▲電解工場にある原料塩の山の見学の様子



● 会社の概要

社名 株式会社 **カネカ** (KANEKA CORPORATION)  
 本店 〒530-8288  
 大阪市北区中之島二丁目3番18号  
 TEL (06)6226-5050(代表)  
 設立年月日 昭和24年9月1日  
 資本金 33,046,774,709円  
 ホームページ <http://www.kaneka.co.jp/>

● 役員

|           |       |        |       |
|-----------|-------|--------|-------|
| 代表取締役社長   | 菅原 公一 | 常務執行役員 | 井口 明彦 |
| 代表取締役副社長  | 羽鳥 正稔 | 常務執行役員 | 水澤 伸治 |
| 取締役専務執行役員 | 原 哲郎  | 常務執行役員 | 川勝 厚志 |
| 取締役専務執行役員 | 永野 広作 | 常務執行役員 | 内田 喜実 |
| 取締役専務執行役員 | 亀本 茂  | 常務執行役員 | 天知 秀介 |
| 取締役専務執行役員 | 岸根 正実 | 執行役員   | 上田 恭義 |
| 取締役専務執行役員 | 中村 敏雄 | 執行役員   | 古吉 重雄 |
| 取締役専務執行役員 | 田中 稔  | 執行役員   | 石原 忍  |
| 取締役専務執行役員 | 岩澤 哲  | 執行役員   | 亀高真一郎 |
| 取締役専務執行役員 | 角倉 護  | 執行役員   | 武岡 慶樹 |
| 取締役       | 井口 武雄 | 執行役員   | 石田 守  |
| 監査役(常勤)   | 井野口康男 | 執行役員   | 落合 計夫 |
| 監査役(常勤)   | 松井 英行 | 執行役員   | 丸藤 峰俊 |
| 監査役       | 塚本 宏明 | 執行役員   | 山田 和彦 |
| 監査役       | 廣川 浩二 | 執行役員   | 藤井 一彦 |
|           |       | 執行役員   | 鷲見 泰弘 |
|           |       | 執行役員   | 牧 春彦  |
|           |       | 執行役員   | 穂谷 文則 |
|           |       | 執行役員   | 榎 潤   |

● 株式の状況

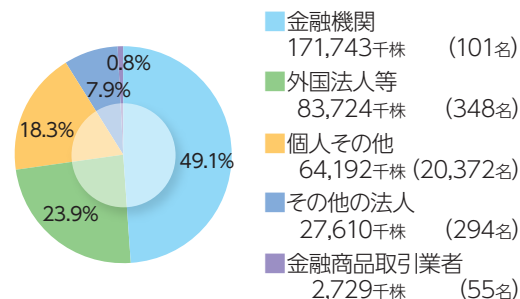
発行可能株式総数 750,000,000株  
 発行済株式の総数 350,000,000株  
 株主数 21,170名  
 1人当たり平均持株数 16,533株

● 大株主の状況

| 株主名                        | 持株数(千株) | 持株比率(%) |
|----------------------------|---------|---------|
| 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)  | 19,444  | 5.77    |
| 日本生命保険相互会社                 | 17,278  | 5.13    |
| 日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)    | 16,910  | 5.02    |
| 株式会社三井住友銀行                 | 15,458  | 4.59    |
| 明治安田生命保険相互会社               | 13,125  | 3.89    |
| 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口4) | 13,000  | 3.86    |
| 株式会社三菱東京UFJ銀行              | 11,544  | 3.43    |
| 三井住友海上火災保険株式会社             | 10,635  | 3.16    |
| 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9) | 8,860   | 2.63    |
| 三井物産株式会社                   | 5,543   | 1.64    |

(注) 1. 上記のほか、当社が保有している自己株式が12,943千株あります。  
 2. 持株比率は、発行済株式の総数から自己株式数を減じた株式数を基準に算出し、小数第三位を四捨五入しております。

● 所有者別株式分布状況



● 上場株式の配当金に関する「源泉徴収税率」変更のご案内

- 平成26年1月1日以降に支払いを受ける、上場株式の配当金には、原則として20% (所得税15%、住民税5%) の源泉徴収税率が適用になります。
- また、平成49年12月31日まで、復興特別所得税として所得税額×2.1% が追加課税されることになっております。

平成26年以降、上場株式の配当金には、復興特別所得税を含め、**20.315% (※)** の源泉徴収税率が適用になります。  
 (※) 所得税15%、復興特別所得税0.315%、住民税5%

|                | 平成25年12月31日まで | 平成26年1月1日から平成49年12月31日まで | 平成50年1月1日から |
|----------------|---------------|--------------------------|-------------|
| 所得税(含む復興特別所得税) | 7.147%        | 15.315%                  | 15%         |
| 住民税            | 3%            | 5%                       | 5%          |
| 合計             | 10.147%       | 20.315%                  | 20%         |

- 源泉徴収が行われる場合の税率です。ただし、内国法人の場合は住民税が徴収されません。
- 本ご案内は、上場株式の配当金に係る税金について、一般的な情報をご提供するために作成されたものであり、本ご案内の内容が当てはまらない場合もございます。詳細につきましては、最寄の税務署、税理士等にお問合せください。本ご案内は平成25年8月時点の情報をもとに作成しております。

● 株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日までの1年  
 定時株主総会 6月  
 基準日 定時株主総会 3月31日  
 期末配当金 3月31日  
 中間配当金 9月30日  
 公告方法 電子公告  
<http://www.kaneka.co.jp/koukoku/index.html>  
 株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社  
 特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社  
 大阪証券代行部  
 〒541-8502  
 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号  
 (お問合せ先)  
 TEL 0120-094-777(通話料無料)

- (注)
1. 株主様の住所変更、買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることになっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。
  2. 特別口座に記録された株式に関する各種手続きにつきましては、左記特別口座の口座管理機関の三菱UFJ信託銀行にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国本支店にてもお取次ぎいたします。
  3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。